

悲惨な戦争を二度と繰り返すな！ 沖縄戦から64年・不戦の誓いを新たに！

6月23日、日本国内で唯一、最大規模の地上戦であった、沖縄戦が終結して64年目を迎えました。1945年3月26日慶良間諸島に上陸した米軍は、4月1日には沖縄本島に上陸し、6月23日まで、「鉄の暴風」といわれたほどの艦砲射撃を行いました。約3ヶ月の戦闘で、日米合わせて、20万人以上が死亡したと言われています。そのうち10万人以上は一般住民で、「味方」であったはずの日本軍からも虐殺されたり、集団自決に追い込まれています。悲惨な戦争によって、人間が人間でなくなってしまったのです。

当時、大本営は、沖縄戦を本土決戦に備えた持久戦と位置づけ、住民も兵力として動員しました。本土決戦の準備のために補給もたたれ、沖縄は、まさに「捨て石」され、多くの犠牲者を出すこととなったのです。私たちは、この様な歴史を忘れてはなりません。二度と悲惨な戦争を繰り返さないために、現に、進められる一切の戦争政策に反対します！

再び戦争への道を突き進む日本！
憲法9条改悪反対！自衛隊の海外派兵反対！



改修された「ひめゆりの塔」に花を供える遺族—23日午後、沖縄県糸満市で

沖縄64年「慰霊の日」

平和への思い 語り継ぎたい

沖縄戦から六十周年の慰霊の日を迎えた二十三日、教員など志しから軍に動員され戦場の犠牲者となつた生徒たちを悼む追善祭が、沖縄県糸満市の「ひめゆりの塔」と、沖縄師範健児塚一で開かれた。

彌留園として動員されたひめゆり学徒隊 後援者さんへは「戦の慰霊祭には五百人が争がなければ表裏も結参列、ひめゆりの塔 婚し子孫ができていれば、隣接するひめゆり塔は、校歌を歌いながら平和祈念資料館が「干から申し試さない気持ち」三百で開閉、千年を迎えた。私たちがいえたの全編に全面改修された。資料館から平和を築けるには学徒隊以外の戦没者、よう思いを継承しては、学生十八の名がわつた。

鉄血勤皇隊として動員された中津師範学校



の男子生徒を養育健児 おいの仲田安さん 参列した長官の長女は、百人が参列（ひめゆり）田中さんへは「私仲田さんは、皆目撃者、も十歳で動員された。同様の慰霊祭は同様の尊厳のいなる。戦ごの辺りを巡り回す生の高北で、〇六、後百半まで慰霊祭を続けた。戦争は全死にす年本戦後に中断されて、この百年、戦争は、体験を語り継ぐことが、沖縄戦で、なかにわ」と語った。それが生きた生々の責任を、鉄血勤皇隊のい」と語った。



消えない戦争の傷

平和の決意新たに

遺族さんへは「戦の慰霊祭には五百人が争がなければ表裏も結参列、ひめゆりの塔 婚し子孫ができていれば、隣接するひめゆり塔は、校歌を歌いながら平和祈念資料館が「干から申し試さない気持ち」三百で開閉、千年を迎えた。私たちがいえたの全編に全面改修された。資料館から平和を築けるには学徒隊以外の戦没者、よう思いを継承しては、学生十八の名がわつた。

鉄血勤皇隊として動員された中津師範学校

記事・東京新聞

「戦争のできる国」
づくりを許すな！